

# 灯



新しい年が来たが、近年は年末年始の伝統的な諸行事も随分と様変わりしている。恒例だった餅つきもイベント以外では見掛けなくなり、わが家のような古い家でも餅つきの道具は蔵の中に何年も眠ったままだ。

お節料理は今

でもお正月の定番だが、これも最近では高級料理店やホテルのお節セットが売れ



草野 義輔

行き好調と聞く。食材も通常家庭で調達するものとは違うのだろうし、料理のプロが作ったものなので当然おいしい。

ところでいわゆるグルメとか食通と評される人がいるが、関連して東京や京都などではミシユランガイドなる本で紹介された料理店に客が集まるといふ。

値段も相当に高いらしいが、安倍首相がオバマ大統領を案内したすし屋もその一つとのこと。食通の人は味覚へのこだわりが強いようで、肥えた舌で評価を下し、それを楽しんでいるようだ。

その一方で何を食べてもおいしいという人もいる。食通を自任する人たちは味覚をしっかりと極めるのでいつもおいしいものに出合えるとは限らない。結果おいしいものを求めてやまないことになる。これはこれで楽しみなのだろうが、何を食べてもおいしい人は毎日の食生活が幸せな時間となる。

私見だが、食通の人は否定から、何でもおいしい人は肯定から、という印象だ。果たしてどちらが幸福なのか、お節料理を前につい考えてしまった。

(昭和学園高校理事長・日田市)